

八坂地区タウンミーティング

平成23年9月29日（木曜）

【市長】 皆さんこんばんは、市長の野志でございます。平日の夜間ですが、また仕事でお疲れのところ、このように大勢の方に集まっていただきまして本当にありがとうございます。またタウンミーティングの受け入れにご協力いただきましたまちづくり協議会設立準備会の垣本会長はじめ役員の皆様にはご尽力いただきまして誠にありがとうございます。

さて、このタウンミーティングと言えば私の7本柱の公約でありますけれども、その一番に挙げているものであります。市長の任期は4年です、松山市内には公民館本館で言いますと41地区あります。ですので48カ月が41地区、1カ月に1地区の割合で回っていければと思っておりましたけれども、おかげさまで各地区に出向いてその地区の魅力を語っていただく、課題について教えていただくということでまちづくりにいろいろな気づきがあります。皆さんから毎回アンケートを取らせていただくんですけど、良かったという意見が大半でありますので、できるだけ早く回らせていただこうということで、今1カ月に多いときで2地区のペースで回らせていただいております。これは市役所職員にとってはある意味しんどいことでもあります。市役所の席に座って市民の皆様が来られるのを待ってるというのは楽ですよ。でもそうじゃなくて我々のほうから出向いて行って、皆さんに各地区の魅力を教えていただこう、そして課題を教えていただこうというある意味めんどいことをまずしております。そして私が職員に必ず申し上げているのが、やりっぱなしはしません、聞きっぱなしにはしませんというのを必ず申し上げております。やりっぱなし聞きっぱなしやったら楽なんですよ。聞いているポーズを見せればいいわけですから。それをやりっぱなしにはしないですよ、聞きっぱなしにはしないですよ、ですので私もこの場でお答えをできることはこの場でお答えをいたします。そして今日は担当の部長課長が来ておりますのでそれぞれの担当でお答えできることはお答えいたします。もしかしたら答えられないこともあろうかと思えます。財政的なことに関わる、また国や県に関わる問題があろうかと思えます。そういうことは必ず持ち帰らせていただいて国県と相談する、事情を聞く、そして皆さんのところに返答をするという形になりま

すので、中にはだいたい1カ月くらい目安でかかることもあろうかと思えます。でも必ず返事をいたしますので、ある意味めんどい仕事ではありますけども、また1カ月に1回のペースを2回に増やしておりますのでかなり職員たちはしんどい思いをさせておりますけれども、これをやっております。

まず魅力について語っていただきますけれども、松山市内41地区ありますけども、それぞれにやっぱり魅力があると思うんですね。人間住んでると、うちのまちには魅力なんかないわい、たいしたことないわいと思う方がいらっしゃるかもしれないですけど、人間ついつい同じまちに住んでると自分のまちを過小評価、小っちゃく見てしまいますけどそうじゃないんですね。必ず魅力ってあるものだと思うんです。その魅力についてしっかりと把握してもらおうと、いいまちづくりができると思っています。ですので、まず魅力について語っていただこうと思っております。そしてもちろん課題についても聞かせていただきます。この地区で言いますと八坂小学校もありますよね、そして石手川公園もあります、ごみ処理、収集もやっております、青少年センターもあります。このように松山市の仕事というのはかなり多岐にわたりますので、各専門の部長課長が来ておりますので自己紹介をさせます。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好龍彦でございます。このタウンミーティングの統括をしております。それから普段の業務では、市民部で申しますと窓口サービス、市民課とか支所とかですね、ほかに地域のまちづくり、人権啓発、市民の相談にのる事業、こういった多岐にわたった事業をしております。よろしくお願いいたします。

【保健福祉政策課長】 こんばんは、福祉部あるいは保健関係を担当しております大濱と言います。よろしくお願いいたします。

【産業政策課長】 こんばんは、産業経済部産業政策課の中西と申します。産業経済部は商業の振興、雇用対策、それと観光振興、農林水産事業、競輪事業等の業務をやっております。どうぞよろしくお願いいたします。

【下水道政策課長】 皆さんこんばんは、下水道政策課の青木と申します。下水道部では主に公共下水道の整備、トイレの排水であるとかお風呂の排水の整備と合わせ、それと河川水路課というところがございまして、河川の環境整備といったところも担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

【生涯学習政策課】 皆さんこんばんは、教育委員会生涯学習政策課長の青木と申します。教育委員会では学校教育とか公民館、そういった分野を担当しております。どうかよろしく願いいたします。

【消防局総務課長】 皆さんこんばんは、消防局総務課の岡本です。消防局で消防行政と地域防災を担当しております。特に自主防災組織には力を入れさせていただいておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

【市長】 最後にお話をいたしました岡本課長は以前レスキュー隊員をしておりました。それぞれの専門であります。もうあんまり固くならず、ざっくばらんな感じでいろいろとお話を聞かせていただけたらと思います。今日は活発な議論をいただいて、これからの八坂のまちづくりに活かしていただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 それでは最初のテーマ、八坂地区の魅力についてどなたかご発言ございますでしょうか。

【男性】 八坂の魅力というのは東西長いですがけんまちで違うと思うんです。私は北立花町ですけども生活が本当に便利です。市役所も歩いて行けるし、スーパーへも買い物へ出るしもうどこでも大体歩いて行きますね。ちょっと遠いところは自転車で行きます。で、もう一つ魅力というのは文化の歴史が大変深いと思うんですが近所には、ホトトギスという俳誌の発刊の地があるんです。少し西には正岡子規の屋敷跡とかお母さんの住んどったところとかあります。文化の香りが高いと言いますかね、そんなことで良いところに住んどるなと思っております。

【市長】 今おっしゃった歩いていける、そしてちょっと遠いところは自転車でいけるっていうのは、これからのまちづくりで非常に大事なキーワードになるところなんです。今日おそらく中心市街地、中心商店街の話が出てくると思うんですけども、「歩いて暮らせるまちづくり」っていうのが、これからのキーワードになると思いますのでその辺も触れていければなと思います。私実家が北条なんですけれども、北条はもう大体車がないとどうにもなりませんので、本当皆さん買い物にも便利ですね。本当に羨ましいところに住んでいるなというふうに思っています。文化の薫りも大いにするところですね。また、魅力あれば教えてください。

【女性】 先日は運動会に参加いただきましてありがとうございました。八坂小学校に子どもがいるんですが、八坂小学校と八坂公民館とでホタルを育成してる

んですが、八坂小学校の前の坂を上ったところに川がありましてホタルのためにその辺の草とかそういったのを年に2回掃除をしたりとかして子どもたちと放流して1年に1回なんですけど、今年は100匹以上のホタルまちの中でホタルを見るっていうことでかなり素敵なところだなと思ってます。

【市長】 これまでの知識で街なかでホタルというと道後の義安寺ホタルが一番街なかには近いところと思ってたんですけども、私八坂でホタル飛んでるのはまだ見たことないんですよ。できたら次のシーズンちょっと見てみたいですね。本当にあまりないんじゃないですか。こんなお城の見えるところで、中心市街地でホタルが見えるとこ全国でもまれなんじゃないですかね。これは本当大事にしていたらと思います。これ知らなかったです。教えてもらいました。

【男性】 松山市の中心部が空洞化しておるとするのは非常に危惧を抱いております。ベスト電器の跡地、松山市内の中心部にありましていわゆる大型店舗が空洞化してそのままになっておる。防犯上も非常に大変な状況、暗いんです、ということ松山まつりが終わったあとは若者がたくさんあのあたりにたむろしてちよほど誰もいないから駐車場の跡地、跡の中なんかに入っていったりして非常にたむろしているとかそういうこともあります。防犯灯なんかあればいいかなと思ってます。それよりも何よりもまず、大型店舗がなくなって非常にまちの活性化といいますか、そういうものが大幅に減じております。景気もこういう不景気な時なんですけれども、ラフォーレの対策も松山市さんも一緒になって考えておられる。あるいは大街道のウォッチマン、そのあとも託児所をつくったり市役所の施設が入るとかそういうことも検討されておると。あるいは三越さんと香川銀行さんに駐車場をとって市民の便利を図ることも松山市さんはやっておられるとなりますと、大型店舗のあの施設をそのまま空洞化させていいのかどうか、どういうふうに松山市さんはお考えになっておるか。そのようなことをお聞きしたいと思ひまして。

それとついでですが、ベスト電器さんの跡地は佐々木興業さんで大街道のウォッチマンの跡地も同じオーナーですね、そういうことと、河原町で発言をいたしましたけれども、ベスト電器さんの跡地は千舟町に属しておりますんでよそのまちにはなるんですけれども一応河原町通りに入っておりますんでどういうふうに松山市さんが考えておられるかということをお聞きしたいと思ひます。

【産業政策課長】 ベスト電器の経緯ですけれども実は平成23年の5月に撤退するという情報を前年の平成22年の7月ぐらいにお伺いはしてたんですけれども、現実には23年の2月に撤退されたということで私たちもびっくりはしております。ですから撤退された経緯については、詳しい情報というのはちょっと持ち合わせておりません。ただ、先ほども言われました地権者が佐々木興業さんということで地権者さんの意向というのをまず第一に考えないといけないわけですが、市としてもその活用策については、あらゆる対策を、地元の方、あるいは佐々木興業さん踏まえて今後協力させていただきたいと思っております。

【市長】 まさに中心商店街は元気にしたいというのがあります。さきほどちらっと述べましたけれどもよく歩いて暮らせるまちづくりですよ。この間も、住宅の建設会社の方が来られてまして、今お年を召して郊外に住んどったけれども免許も返上すると、病院もいっぱい街なかにはあるしもう免許返上したとしても電車やバスがあるけん街なかのマンションに住みたいという方が結構おいでるといふの聞きまして、やっぱり郊外で若い時は住んで、年とってから街なかに住もうという人確かにおいでるんですよ。そういう中で中心市街地っていうのはこれまでに増して福祉の観点でのまちづくりをしていく必要があると思っております。そういう動きがまず一つある。先ほど言っていたんですけれども、大街道の旧ウオッチマンのところで空き店舗を利用した保育所をするようになりました。これは私公約の中に掲げておりまして、かたや空き店舗ができてしまって、かたや待機児童解消してほしい、できるだけ保育所つくってほしいっていう希望がありますから、街なかには保育所ができたなら仕事場も近いですから、仕事の時に預けて行ける、預けとったら買い物もしやすいということで商店街の方にもご協力をいただいて、ウオッチマンのところに保育所をしようということが決まったわけです。できるだけ皆様の希望も入れていきたいということで、どんな希望があったかという、多目的トイレをつくってください、ただのトイレじゃなくて、多目的トイレをつくってください。他にまち歩くとしんどくなりますから、休憩場をつくってください。例えば授乳室をつくってくださいとか、また商店街を元気にするためにイベントができる場所をつくってくださいとかどんなお店が商店街にあるのか商店街の案内をする場所をつくってくださいとかコインロッカーがあればいいとかベビーカーを貸してくれる所があったらいいとか、それでお

年召した方のカートが借りれたらいいとか車いす、携帯を充電するところが欲しいとかそういう皆さんのご要望がありましたので、保育所だけでなくスペースもちょっとできましたんでそういう施設をつくって皆様の利便性を図ろうということにさせていただきます。保育所はですね、月火水木金土の朝の7時から夕方6時まで預かります。ですから職場に行くのも便利、そして日曜日祝日は9時から夜の8時で託児を行います。買い物に行きたいけどちょっと子どもがおったらなかなか品物も選べんけんちょっと預かってほしい。で、あとさっき言った多目的トイレとか休憩室をあわせたのをつくると。オープンは来年の2月の予定になっております。この中で子育て相談を週2回するとか、あと「ふれあいいきいきサロン」、お年召した方が集まっていたいてつながりをつくってもらおうという「ふれあいいきいきサロン」っていうのをやってるんですけども、これを大街道でやろう、週2回。とか「街角消防救急サロン」でAEDの講習をしたらどうかとか、何せ、人が寄ってきてもらえる場所にしようというので保育所とあわせて考えました。とにかく、これを早速実行したように、中心商店街の魅力アップに努めたいという気持ちはありますので、まず、こういう形でやらせていただきました。これからも、10月から来年2月の間に10回程度作業部会の勉強会などをしまして、地域住民の皆さん、またまちに来る人、市民の方々のご意見をいただきながら魅力あるまちづくりについて考えていきたいと思っております。

【産業政策課長】 市長から街なかの保育事業について話しましたがけれども、実はこれ空洞化対策の一環で、実はそれ以外にも空洞化対策でみなさん「ぎんこい市場」というのご存知でしょうか。あれが今湊町に場所が変わってかなり盛況にやっておられます。あれも空き店舗を利用した対策事業です。あれは少なくとも3年間、松山市が開店あるいは運営に対して補助をします。地域経済課が、空洞化対策事業ということでやっております。空き店舗につきましてはそれ以外にも、様々な試みをしておりますし、また、「おいでんか」という伊予銀行の所で多目的スペースみたいな形であそこも活用させていただきました。ただ、ちょっとあれは止めておりますけれども。それとラフォーレの話、三越、香川銀行の話ですね、もうよくご存知で。松山市としても中心部の事業ですので進めていかないといけないと思っております。それ以外にも小さい事業ですと例えば11月に大街道で「門前まつり」があります。ああいうイベントに対しても松山市が補助しており

も東予や南予にも知り合いがおりますので、松山に店出したいんやけどどうしたらいい、とかいう相談を東予や南予の方からも受けたりすることがあります。もちろん紹介したこともありますし、あとですね、今、花園フードストリートっていうのをやってるんですけど、これもこの思いと同じなんですよ。松山城があります、松山城の下にロープウェイ街きれいになりました、大街道、銀天街、そして市駅前、まつちかあります、で、まちの中心に堀之内っていうきれいなセントラルパークができました。その間の花園町、ちょっと私目をつけまして花園町通りって四国で一番大きい幅広い通りなんだそうです。で、夜見たら、いちよう並木があって、いちよう並木とアーケードの間のスペースあんまり使ってない。あそこを例えば呉市なんて屋台のまちづくりを平成13年からやったんです。呉は大阪から350キロ離れた大阪から呉に屋台珍しいから言うて食べに来て、呉に泊って翌日大阪に帰る。確実にお金を落としてくれる形ができたんです。呉、屋台のまちづくりができた。ほんならやってみたらどうかなど。で、今回やったのが花園屋台ストリートなんです。おかげさまで1日1500人ぐらいのお客さんきていただいて結構なお金が落ちております。ですので、ああいうふうに、これも歩いて暮らせるまちづくりの一環なんですけれども、あそこに屋台ができる。例えばあそこ、お昼オープンカフェができてたらどうでしょうね。ヨーロッパのまちづくり、結構街なか中心部オープンカフェがあったりするんですよ。なんかちょっと楽しそうじゃないですか。お金がまた落ちたらいいですよ。そういうふうにまちづくり、常に考えてますのでお気持ちは同じだと思います。

【女性】 私今タンDEM自転車の愛好会を立ち上げて視力障害の方とか自閉症の方後ろに乗せて松山の観光をしてみようという試みをやってるんですけども、市の中心部が自転車道として歩道分けされていますけれども、ほとんどがバイク、自転車が駐車されてちょっと走行ができない。はっきりとしたまちの区分が意識づけができてないことが一つ問題があると思うんですね。それと、タンDEM自転車で走るとなると、車道走行が基本とされていますので、今私自身もちょっと行政の力をお借りして、自転車のまちの中の走り方講習的なものを行政で取り組んでいただいたらありがたいなということと、それと、今道後温泉からずっと松山市の観光地図マップを基本のベースとして走ってみたところ、やっぱり市外、県外から来られた方が松山市を観光する時に車で移動されるって非常に不便。で、

道後のほう走ってましたら、そういう自転車貸し出しされてますか、とかって言われたりしたことがあるんですけど、市のほうにも私1回お伺いさせていただいて、申し入れがあれば、タンDEM自転車の貸し出しっていう方向も考えていきたいっていう提案をさせていただいてるんですけども、素人がよちよち歩きで始めてることなんで、できれば歩いて過ごせるまちイコール自転車で近くを動けるまちづくりっていう形の中で一番に自転車道の整備を考えていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

【市長】 都市整備が来てたら良かったですけどね。私からお答えしましょうか。これもですね、市長またって言われるかも知れませんが気持ちは同じです。今ですね、松山出身の東京大学で交通工学の権威って言われてる方がおられてね、東大で今准教授してるんですけども、彼が今松山のまちづくり、やっぱり出身地でもありますんで手を貸してくれてます。皆さん覚えておいてください。「遅い交通」がキーワード、遅い交通って何かと言うと車とかじゃなくて、歩いたり自転車も入ります。まちづくりのことについて話しますけれども、松山ってコンパクトシティって言うんですよ。もうだいぶ街なかに集まってるじゃないですか。こういうのをコンパクトシティって言うんですよね。病院も近いし、買い物するにも近いしコンパクトシティって言います。大学も近いですよ。コンパクトシティですよ。もう一つ松山の利点は電車があることです。東京都内ではある区では電車を復活させようという動きがあるくらい。大量に運べます。排気ガスが出ない。電車があったっていうのは松山にとってすごいプラスです。もう一つのキーワードは「大きい冷蔵庫より小さい冷蔵庫」っていう言葉が今よく言われるようになりました。昔は郊外に家を建てましょうみたいな流れがありましたけども、そうすると車で1週間分の買い物してきますよね、そうじゃなくて、歩いて近くの店に買いに行って店の人と語らいながら、今日は何が安い、今日は何がおいしい、っていう毎日の買い物をしてもらいましょう、歩こうそして語ろう、小さい冷蔵庫っていう話がある。これ大事なこと。もう一つ言うと今、厚生労働省中心に言ってるのが国民の平均歩数を一日千歩だけ余分に歩いてもらいましょう。そうしたら糖尿病の発症をおよそ3パーセント減少させることができますよ。糖尿病いうたら脳卒中とか心臓病の源にもなるって言われています。歩いてもらうことが大事ですから、歩こう、自転車利用しましょう、っていうのはまさに国が目

指してるまちづくり、松山もコンパクトシティ、電車もあるからそれをやっ
ていこうとしてます。花園町の使い方も考えてみようっていうのもその一つのあら
われです。私がちょっとやりたいと思ってるのは歩きたくなる魅力をつくろう。四
季の花が咲いてると歩いて気持ちいいですね。水辺があると気持ちいいですよ
ね。そんなあらわれは道後ににぎたつの道ってあるんですがあそこ水が流れてい
ます。気持ちいいですね。あと緑があると歩きたくなりますね。堀之内なんか歩
きたくなりますよね。こういうことで皆さんが歩きたくなるようなまちづくりを
していこうと思ってます。あと一つだけ言わせてください。脳卒中で体にしびれ
が出てしまった、もう家から出たくない、閉じこもると寝たきりにつながって
いく。そうじゃなくて、しびれが残ったとしてもできたら歩きたくなるまちづく
りをしてまちに出ていただく、そうするとリハビリになって屋外で歩行が楽し
くなります。いろんないいことづくめなんですよね。ですので歩いて暮らせるま
ちづくり、歩こう、自転車で動こうっていうのをこれからしっかりとやっていき
たいと思ってます。

【市民部長】 ほかに質問がありましたのは自転車ができるだけ走るようなハー
ド整備も考えてくださいってことですけども、今現在、千舟町と花園町のところ
に通行帯を設けております。あれは自転車が歩道を走るのも危ない、車道も走る
のも危ない。そこで段階的にそういう部分を設けて、社会実験やっております。
これを一番町まで広げる予定だそうです。そういう社会実験して皆さんの意見聞
きながら最終的にどうやったらいいかっていうのを、みんなで考えていこうとい
うきっかけにしようというように考えているみたいです。それから最初の質問に
あった自転車の走り方の講習っていうのはマナーの問題でしょうか、それともタ
ンデムのことについてなんですか。

【女性】 全国で問題になってますよね、自転車のマナーが悪いっていう。で、
やっぱり歩車分離とかいう中でもこのゾーンに自転車が入ってきてるから、やっ
ぱり勝山通りとか県庁前ですかね、自転車と歩行者が入り乱れた形の中で動い
てるじゃないですか。やっぱりある程度定期的に自転車の走行指導も入れていかな
いと本当に危険な自転車も本当に動く凶器だっていう意識を持っていただかない
といけないなっていうことを感じながら私は今メンバーと一緒にタンデムで走る
時に自転車走行の基本になるような走り方しようっていうことで気を付けてはい

るんですけれども、ちょっとやっぱり迷うんですよね、歩車分離の時にどういう方向で走ったらいいのかなっていうのを迷ったりするんですけど、学校単位ですると、一般単位です。その自転車の走行指導を少しずつでも入れていかないとちょっと危険なまちになりうるかなと。

【市民部長】 今答えられる範囲で答えさせていただきますと、まず大街道、湊町などの自転車走行については、降りて押してくださいね、って形で随分お願いしながら良くなったんですけどまだまだ走る人見られるんで、まだこれから続けていこうと思います。土曜夜市のあとなんかには一緒に警察の方なんかと歩いて指導して呼びかけとんですけど、なかなか改まらないっていう現実ありますんで、もう少し頑張っていきたいと思います。それから一般の歩道等につきましては道路交通法の問題がありますのでこのあたりはすみません、宿題として持ち帰らせていただきたいと思います。後ほどきちんとしたお答えは返させていただきますのでよろしくお願いいたします。それから子どもたちについても学校で、交通教室で定期的に交通関係の警察の方来られて、いろいろ授業とかイベントの中でやっておりますので学校の中では取り組めるとは思いますが、一般につきましてはすみませんが持ち帰りさせていただきたいと思います。

【女性】 小学校はいいんだけど、中学、高校と一般と。

【産業政策課長】 それとレンタサイクルの件ご発言があったと思うんですけど、今 JR 駅前と大街道とロープウェイそれと道後にレンタサイクルの貸し出しを設けております。観光客を中心にご利用はしていただいております。そういう事業はやっております。

【女性】 せっかく歩けるまちなのに歩道が非常に危険です。それは自転車とかの問題じゃなくって、歩道自体が危険です。きれいにカラー舗装、それからタイル状の石のようなものとか敷いて下さってますが、カタカタしますし、段差が非常にありますのでお年寄りの方はちょっとした段差につまずきます。あれでよく転んだという話を聞きますし、手もつけないで顔を傷つけたとか市のほうに被害届けとか出てないかも知れませんが、自分も歩いてカタカタとか段差つまずくことありますので高齢者にとっては非常に危険だと思いますので、あれなら、まだアスファルトのままの平らな状態のほうがいいんじゃないかと思うことがありますので、一度お歩きになって道路関係の方に見ていただきたいと思います。

【市長】 わかりました。例えばどのあたり。

【女性】 千舟町通りは非常にそういった関係多いです。工事も何度も繰り返してますから石の敷き直しもたくさんしてます。石は平面ですから斜めのところに自転車が上がるようにしてあるところに平面にいくら敷いても必ず角がたちますし、そういったようなことでよく高齢者の方がけがをしたとかつまずいたというようなことを聞きます。

【市長】 千舟町通りのどのあたり。

【女性】 私がよく行動するのはあたりやさんの歩車のあたりからそれからずっと市役所それからずっと宝くじ売ってるところがありますよね。あのあたりまでのところにはカタカタたくさんありますし、目の前で転げたおばあさんも見ました。

【市長】 宝くじ竹村さんのところ。

【女性】 はい。あのあたりまでの歩道が私が感じるのは特に南側のほう。

【市長】 わかりました。はい。

【女性】 その件で補足したいと思います。私、去年の12月1月と3カ月ほど、先ほど市長さんがお話になられた東京の大学の方のモニターでGPSをつけてずっと歩き続けました。それは感じました。で、その後どのように改善されるのかなと楽しみにしておったんですけど、鳩のふんがあつた時も特にすごくふん害が激しいところはたくさんあったり、杖をついて歩かれる方とか、車いすの方とかとよく私は自転車で行動してたんですけどもそのときも危ないなっていうのは今おっしゃられたところももちろんそうだったんですが、はい、私も身を持って感じました。

【市長】 わかりました。鳩の害はどのあたりですか。

【女性】 もうたくさんあります。街なかには。

【市長】 カラス。なるほど。これちょっと持ち帰らせてもらいましょうか。はい。

【市民部長】 すみません、持ち帰らせていただきますけど、緊急事態よく道路の舗装面のインターロッキングが外れたりしてる時に市の道路管理課で市道であれば維持、補修しております。県道であれば県の地方局で管理しておりますけどもできましたらわかった段階で行政に連絡をいただきたいと思います。できるだ

け危ないところについては早めに補修もさせていただきますので気がついたときには放っておかずにできるだけ道路管理課に「こういうところがこういう状態になっとるよ」っていただけますとできるだけ早く対応させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。その他のちょっとカラスのふんの件についてはちょっと持ち帰らせていただきますが、そのカラスのふんが落ちて滑るということですか、危ないというのは。

【女性】 あまり汚すぎるのでみんながそこに行かないんです。せっかく歩道になってるのにあまりにふんがひどいから横に寄っちゃったり。

【市民部長】 汚れてるってことですね。

【女性】 あまり通らないです。

【市民部長】 はい、ちょっとそれはすみませんが持ち帰らせていただきます。

【女性】 それでですね電線にカラスがとまらないようにトゲトゲになってる分を出てるなって確認はするんですが、学習するんですね、鳥も。それで何か対策があればと思います。

【市民部長】 道路管理課に電話していただきますとその状況を確認させていただきます。カラスの件についてはまた持ち帰らせていただきます。

【市長】 県道とか市道とかわからないと思います。遠慮なくかけていただいて、それは県ですよ、それは市ですよ、っていうのを言えますし、もし対応悪かったらわくわくメールで送っていただいたら私があとで、どういうことですか、って担当課を話をいたしますので。もし対応が悪かったら市長へのわくわくメールで送ってください。

【男性】 まちで自治活動やっていく上で一つ課題になっておりますのは、マンションの問題です。ごみ出しの指導にしろいろんな行事の連絡にしろ上手く連絡が取れません。自治砂漠って感じでございましてせっかく自分たちの地域に来てくださってるんだから、何とか皆さんも一緒に入ってもらってと思ってもうまく連絡が取れません。行政のほうで何かいい方法はないのか。私以前に広報委員したときに条例でもつくってマンションをつくる時にはそういうことをきちっと言うことを義務づけしてもらえんかと実際にはほうぼう困っとるんだがと言うたことはありますけれども、いろんな難しい問題があるんじゃないかと思いますが、何か現状を聞かせてもらいたいし、いい方法についてお考えいただけたら

ありがたいと思います。よろしく申し上げます。

【市民部長】 自治会の問題についてですけども、今町内会の加入率というのが8割、市内全域で。一番最近直近の数字で8割切っておると思います。以前は90パーセントっていう数字があったんですけども、最近は随分減っておりますけれども、一番大きな原因が集合住宅ですね。我々住民の自治組織の担当してるときよく相談受けるんですけども、そのときにどうすればいいんだろうかとお答えしてるのはまず、分譲マンションの場合は自治会がありますのでその自治会のほうに、できるだけ丁寧に話していただいて、加入呼び掛けしていただきたいと思います。そのときに必ず加入することによってみんなの負担でごみの集積所とか、地下の水路なんか管理してることの必要性をまた説いていただきたいと思います。それから賃貸マンションの場合、自治会はございませんので、この場合には管理人さんを通じて、自治会の加入というのを呼びかけたらどうでしょうか、とお話をさせていただいております。

【保健福祉政策課長】 高齢者の方々、ご夫婦ともに高齢者であるとか中には独居で高齢者の方もおいでるけども、こういった方の自治参加については、非常に難しいと考えております。ただこういった方々を自治の中に呼び込んでいただく、あるいは自治に参加していただくことによってひとり暮らしで近所周りのお付き合いがないというのを防ぐという点でも効果があると思いますので私どもも高齢福祉を通じてそういった方々に呼び掛けをすとか、地域で支援が必要な方について支援活動行っていくとかいう取り組みもしております。これも行政と地域の方と一体になって進めていきたいと考えてます。また、東日本大震災の教訓を受けて、さらにこれを強化していこうとも考えておりますのでよろしく願いいたします。

【男性】 賃貸住宅の場合には管理人さんの方にはその旨行政からおっしゃっていただいているのでございますか、町内会と連絡を取れよとか。

【市民部長】 それはあくまで町内会の方とそのマンションの所在する方と直接のやり取りをお願いしております。町内会は任意組織なんで行政のほうから、加入しろ、加入しない、ということは難しいもんですから。

【男性】 それはわかります。自分たちでやるべきことですからいいんですが、賃貸マンションをつくるときに、認可されるんでしょ、市が。そのときにある程

度の手は打ってもらいたいっていうか、自治体町内会とも十分連絡取るような手を打てよというような指導があれば大分動きが違うんじゃないかと思います。よろしく願いいたします。

【市民部長】 今の趣旨をまた含めましてまた持ち帰りさせていただきたいと思います。よろしく願いします。

【男性】 福祉関係ですけど地域包括支援センター、八坂と番町と東雲校区には高齢者が4千数百名おるわけですが、センターが一つもないわけです、だから私年取って相談に行く場合に、中村町までいかんといかんなど思っているわけですけど、できれば八坂の近辺に1カ所くらいは設置してもらったらと思います。これが一つです。それから今地震が大変怖いですね、ほんと地震は怖いと思うんですね。高齢者ですけども、この校区では3割が高齢者なんです、5,000名のうち。で老老介護の方もいらっしゃるし、独居の方もおそらくは3割くらいはいらっしゃると思います。地震の場合逃げようがありません、歩けんのですから、できれば、無理な注文かもしれんけど、どの家庭にはどういう老老介護の方がいらっしゃるのか、あるいはどういうひとり住まいの方がいるとか、町ごと、家ごとに把握をして、避難とか救助とかそういうものがあつたら、いくらかは命が助かるのではと思うんですよ。それとお礼なんですけど、高齢クラブに対しましてずいぶん補助してもらっております。一銭でも大事にして高齢者のために使いたいと思っておりますので、財政難で将来の見通しわかりませんが、できるだけそういう配慮をお願いしたらと思います。

【市長】 私のほうから先に一つ、民間からこの立場に立たせていただいて、松山市は中四国の中では2番目に財政がいい、1番は徳島県の阿南市。これは日亜化学という、LED青色発光ダイオードで大変元気な会社があるのでとても財政がいいそうです。で、松山市2番目にいいと言われております。私もこの立場になって、松山市の財布の中身を見るわけですよ、楽ではないなというのが正直な感想です。戦後の高度経済成長の世の中だったらどんどん経済がいい状態になって税収がどんどん上がる、そういう世の中ではなくなりました。今、国においては借金が1,000兆円、950兆円ある、地方交付税交付金とかで国から地方へお金が渡っていた、でもあれだけ借金がありますから国から地方に回ってくるお金少なくなります、地方財政が膨らむということはもう考えられないわけで

す。松山市の具体的な話になると、一番大きなウエート占めるのが民生費いわゆる福祉にかかるお金が40パーセント、福祉にかかるお金が一番大きい、40パーセントです、その民生費が前の年とたんぼ増えたかいうたら1年間で50億円増えたんです。ということは、どこかで50億削らんといけないわけですね、その民生費の中で生活保護費は前の年とたんぼ増えたかいうたら20億円増えたんです、20億どこかで削らないと財政のバランスは取れないわけですよ。やっぱり厳しいなというのが現実です。昔だったらいいですよいいですよと、どんどんいろいろなものを建てれば、市長の人気とろうと思ったら、ああいいですよこれつくりましょうつくりましょう、税金ぐっと安くしましょう言ったら人気はとれるかもしれません。でもそれをやると確実に将来の子どもや孫につけを残すことにほかならない。それはできない、じゃあどうするか、知恵と工夫アイデアを絞るしかない。そんな中で政策の中で工夫をしながらやっているというのが現状です。これが悩みではあります。元が限られている中でいろいろと考えながらお金を配分しているという状況であります、まず冒頭で話させていただきました。

【保健福祉政策課長】 包括支援センターについて、現在松山市内を10の区分で分けて、包括支援センターを運営管理をしております。10カ所というのは地区の民生委員であるとか、地域を平等に松山市内で位置づけた時に、理想であろうという取り組みで10カ所になっております、現在そういう取り組みをしております。平成24年度にこれも見直す形をとっておりますが、今現在その10カ所を増やすのか、逆に今のままでいくのかということは現在決まっております、方向出た段階でまたお示しをしたいと考えております。ご了承いただいたらと思います。それと地域で支援を必要とされる方、あるいは高齢者の方、障がい者の方、こういった方々の対策については、私どもは地域でその地域で住まれた方ができるだけその地域で長く生活できる安心できる形をとりたいということで民生委員あるいは松山市社会福祉協議会の関係するところと連携しながら、現在総合的な対策を進めているところでございまして、その中でも特にひとり暮らしの高齢者の方には安否確認あるいは独居の方になりますと民生委員が65歳くらいの方からを対象に希望者を募って、私は見守り、介護が必要だから地域の方で見回ってくださいという関係者については松山市で独居高齢者みまもり員制度を設けて定期的にご自宅に訪問させていただいてお声掛けをさせていただく制度もと

っております。そのほかに緊急通報装置、これは電話の横にボックスを置いて緊急の場合には救急車を呼んだり、日常では健康相談を受けたりというふうな事業、あるいは乳製品の飲み物をお配りするとか、愛の一声運動でご家庭を訪問する事業も行っております。そのほかにも今年も今月に行ったんですが、数えて100歳以上の方の自宅に訪問させていただいてお元気でという表彰状を渡す中で、民生委員が安否確認をしていただくことを行っています。こういった中で、東日本大震災の教訓を受けて、このままの制度を続けるとともに、今後ますます地域での皆さん方の連携を図っていただく、あるいは見守りが必要な方、支援が必要な方の情報を共有することで、災害があった時に救護もより進むのではないかと今現在進めておりますが、そういった情報を共有する方法についても検討を進めております。そういったことを重ねることによって生命、財産も守っていきたくて取り組んでおります。これがまたでき上がった段階では皆さん方にお示しし、ご協力もいただきたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

【男性】 素朴な疑問としてもし東日本大震災並みの地震が起きて津波が来たときにここは大丈夫なんだろうかという思いがあります。不勉強で、たとえばこの青少年センターにしろ八坂小学校にしろ標高何メートルかということ知らないんですけど、瀬戸内海ですから、大きなものは来ないかもしれませんが、もし市のほうでたとえば震度なんぼのが来たときに最大松山市で考えられる津波の高さはどれくらいで、もし2メートルが来たらどの辺までは浸水するかもしれませんよというシミュレーションをしているのであればお教え願いたいというのが1点です。もう一点は、恐らくほとんどの学校が避難施設になっていると思うんですけど、日中だったらいいんですけど、夜間とか土日とか休日に住民の方が避難しなければならなくなったときに公民館だったら近くに管理する方がおいでと思うんですけど、不審者対応で門が閉められているとか、体育館のかぎを開けなければならないというときに、そういう連携といいますかそういうシステムが全部の学校にできているかどうかそこら辺のところちょっとお伺いしたらと思います。

【市長】 南海地震で言いますと、今後30年以内に60パーセント程度とこれはみなさんよくご存じだと思います。南海地震はマグニチュード8.4、松山の震度は6弱を想定しております。皆さん気にされると思いますけど、津波の想

定ですけれど、松山港で第1波の到達時間をおよそ2時間10分後、最大の津波の高さを2.4メートルとしております。ここは20とか30メートル海拔ありましたよね、あと課長お願いしますね。私から申し上げるのは、皆さん3月に全戸配布ですので、松山防災マップ。この中に私も愕然としたんですけど、何らかの災害に遭遇すると思ってる人が75パーセント、で地震に備えて家具固定をしている人は19パーセントなんです。逆に言うと80パーセントの人はしていない、75パーセントの人は災害に遭うだろうと思っているけど、80パーセントの人は備えがあまりできていない。ちょっと愕然とする数字がありまして、で、もう一つ申し上げると、これは大学の先生ともご相談させていただいてつくった入魂の作なんです。なぜかという、以前もこういうマップはあったんですけど、以前は蛍光色ももっと派手かましい色を付けたんです、そのほうが目立っていいだろうと。でも目の不自由な方からするとかえって見にくいそうですので、もうちょっと穏やかな色でというところまで配慮してつくったのがこの松山防災マップです。全戸配布しましたので、この中にはどういう備えをしたらいいのかとか役立つことがたくさん書いてますので、ぜひともまたお帰りになったら見ていただいたらと思います。これをまず活用していただくこと、八坂地区だったらどこが避難所というのも出てますから。八坂公民館と八坂小学校でしたかね、こちらの避難所は。

【消防局総務課長】 東北の地震の規模が松山市にきた場合、どういう影響があるかということですけど、市長が言いましたとおり、津波の高さは最大2メートル40センチでございます。ここのセンターの標高が30メートルありますし、沿岸部から10キロ以上離れてます。まず津波が来ることはないんですが、万が一来たとしてもここまでは来ません。石手川の堤防、大雨が降って洪水になったときに、越水の警戒の高さが6メートル10センチなんです。石手川の堤防の高さが6メートル10ありますから、川を流れてきたとしても、最大の高さが2メートル10センチですから八坂地区まで影響は及ばないというところなんです、八坂地区は市街地なんで警戒するとすると建物の倒壊また、火災こちらに重きを置いて準備をしていただいたらと思います。神戸の地震のとき亡くなられた方は6,400人おりましたが、約8割が倒壊家屋の圧死で、1割が火災での焼死、9割がこういった形で亡くなっていますんで、都市災害というのは建物の倒壊、

火災これに注意していただく地区が八坂地区だと思います。避難所のかぎ、小学校中学校のかぎの管理の件ですが、21年度の自主防災のネットワーク会議をやっております。年2回やってるんですがその中で教育委員会から必要な自主防災組織は申請書を提出していただければお渡ししますよと、ただし震度6弱以上の地震が発生した場合で近隣に居住する代表者の方、自主防災組織の代表であるとか町内会の会長さんとかいった方に申請していただければお渡ししますという形になってますので、必要であれば教育委員会に申請していただければ貸し出しすることはできます。

【市長】 阪神大震災で行かれたのは岡本さんでしたね、まさに阪神大震災で、当時レスキューだったですかね、現場に派遣した職員が今現場で防災対策の仕事をしております。私も南三陸町に行ってきたんです、私が行ったのは6月だったんですけど、なぜ南三陸町かというと、松山からずっと保健師を送り続けた町だったんですね。あそこが津波が上ってきたのが3キロです。松山市役所は仕組みを変えることにしました、というのは大きな災害が起こったときには消防局に本部を設置しますということにしてたんです。でも、南三陸に行って瓦れきの山を見てきた。もし松山でそういう事態になった時に、市役所本庁から消防局に行くだけでも時間がかかってしまう、市役所本庁の中に防災対策本部をつくりましょう、でも問題は市役所って会議室が取れなくて外に借りてるくらい狭いんです。でもとにかく市役所内につくってくれと、で防災対策の課長までだったんですけど部長をつくれと、部長ができることによって指示が飛ばしやすくなりますから。新しい仕組みを普通だったら来年の4月1日からってなるんですけど、できるだけ早くすることにして11月1日から組織を変えることにしました。もう一つ、南三陸で教えてもらったのが、あそこはたまたま高台にベイサイドアリーナという新しい体育館つくったんでそこが避難所になった、救援物資がそこにどんどん入ってきた、スペースないんです。で町長さんに教えてもらいました、どういふことが必要ですかいうたらトラック協会さんと協定を結ぶことが大事ですよ。なぜですか、救援物資の仕分け、どこに置いたらいいか、どういふふうに出したらいいか、そのための仕分けする資材、そういうものをトラック協会さんと結んでおくともとてもいいですよ、限られたスペースになりますから、そういうこと教えていただいたんで、先日、愛媛県トラック協会松山支部さんと提携をさせてい

いただきました。できることからどんどんとやっていきます、市民の安全安心が第一だと考えていますのでできることからしっかりとやっていきたいと思っています。

【女性】 野志市長におかれましては、笑顔あふれる松山のキャッチフレーズの実現に向けて平成25年までに41地区でタウンミーティングをされるそうですが、私たちにとりまして市民生活第一の政策に向けて地域住民と膝を交えて市民の声に耳を傾け行政と地域が一緒という政策のもと市民の声を吸い上げて市政に反映していただけるとのこと、また、聞きっぱなしでないとおっしゃいましたが、大変心強く期待しております。私は災害について発言させていただきます。南海地震の発生の確率が以前は30年以内に30パーセントと言っていたのが、だんだん確率が上がりまして60パーセント、70パーセントと言われております。松山市も近くに伊方原発がありますし、東日本大震災のように複合的な災害に遭うのではないかと危惧されております。今年は特に想定外の災害がたくさん起こっております。もし近い将来大規模な南海地震が発生した場合、避難場所が八坂公民館と八坂小学校になっておりますが、どちらも昭和56年6月以前の建物で、耐震性がなくて大変不安に思っております。一刻も早く耐震診断そして補強をしていただいで避難場所として安心して利用できますようお願いいたします。

【市長】 就任するまでによく聞いていたのが福祉の現場が、仕事が大変だ、建設土木の仕事が大変だと聞いておりました。そうした中、公民館ですとか小中学校の耐震化というのはまさに有効な公共工事ですよ、無駄がない。公民館の耐震化をどんどん、また小中学校の耐震化をどんどん早めようと思っております、まず第2次校舎耐震化事業というのがありまして、平成29年度からやる予定になってたんですけど、6年前倒してやります。耐震度が低いところからやらないといけないということで、八坂小学校は27年度着手、28年完了予定になっております。公民館の耐震改良ですが、平成30年度で終わる予定だったんですけど、これも2年前倒しをしまして、平成28年度に終わるようにしております。八坂小学校ですけれども、運動場に面した南側の校舎1棟の耐震化が必要です。ですから第2次校舎耐震化事業で補強工事を行います。また、八坂公民館は耐震診断を行ってございまして耐震性能を満たしているとのことでございます。

【生涯学習政策課長】 体育館ですけれど平成20年度に耐震化工事をすべて松山市実施しております。先ほど市長からも話ありましたけれど、校舎3棟ありますが、あとの2棟は昭和59年建設で耐震基準を満たしております。南側の校舎だけがこれからということになっております。予定ではありますが28年度くらいということでございます。56年以前にできた建物については耐震指標が低い場合が多いものですから、この南側校舎は43年ということですので、耐震化をしないといけないということでございます。

【市長】 これも財政との話になるんですけど、耐震化どんどん進めましょうよという話ですけれど、だいたい11年間で52棟ですから1年間に割り算すると4校から5校くらいしかできない、やれたらどんどんやりたいと思いますけど、そういう状況であるということです。耐震度の低いところからやっていくということになります。

【生涯学習政策課長】 公民館の話もありましたけれど、今現在耐震機能が十分でないところが8館ございますので、23年度から28年度にかけて耐震化工事を実施する予定となっております。八坂の場合は耐震性を満たしておりますので、その対象になっておりません。

【男性】 公民館のことについてお願いをしたいと思います。八坂校区には人口が約5,000人おまして、そのうち65歳以上の方が30パーセントとなる少子高齢化の地区でございます。八坂公民館は3階建てで3階に大会議室がありまして、30名以上の行事につきましては3階でやるということになっております。そうしますと高齢者や足の悪い方には、階段を3階まで上がるのは大変です。当然参加者が減少しております。エレベーターがあれば高齢者にとって安全安心で参加者がもっと増加するのではないかと考えております。ぜひエレベーターをつけていただきたいと思います。もう一点は1階2階3階にそれぞれトイレがありますが、いずれも1カ所に男性用と女性用があります。男性が入っていると女性が大変入りにくくて困っております。できましたら早急に改造していただけたらと思います。以上2件よろしくお願ひします。

【市長】 お気持ちよくわかります。私も公民館それぞれに行ったことはなかったのですが、去年の今ごろ地域集会で公民館出てきて初めて知ったのですが、雄郡の公民館が3階に座敷があるんだけどエレベーターがない、そういうところあ

るんですね。男女トイレが一緒だと入りにくいのがわかります、昔の公民館のつくりなんですね。これもまた財政との話になってしまうんですけど、持ち帰らせていただきます。

【生涯学習政策課長】 3階建てでトイレが男女別化されていないということで改修する必要がいずれはあると思うんですが、ただ、エレベーター設置する場合、敷地の中にスペースを確保する問題もあるんですよ。今現在はまず耐震工事、耐震基準を満たしてないところを最優先するというようになっておりますので、財政の様子を見ながら、今後高齢者とか障がい者の利用状況とか、地域住民の方の要望も踏まえながら大規模改修とかとあわせて検討させていただきたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

【市長】 これについてはどこの地区でも出る話なので、ちょっと古い公民館があるところだったら、うち先してやという話がどうしても出てきますので、全体にらみながらという話になろうかと思いますが、これについては持ち帰らしてください、必ずお返事を申しあげます。

【男性】 今までの質問の中で大体出たと思うんですけど、質問させていただきます。松山市の中心地番町、八坂、東雲地区の人口減少、児童数減少、特に八坂地区は人口減少、児童数減少が著しいです。今年度の八坂小学校の新入児童数は18人とか、高齢化も他地区より高いと思います。松山市は中心地対策をどう扱おうとしているのか、今、市長からも返事ありましたけど、書いてありますので、読まさせていただきます。まちづくり協議会だけでは人口対策、高齢化対策、児童数を増やすことは難しいと思います。幸い八坂地区は公民館に分館がなく、公民館1カ所だけであり、他地区よりは公民館行事が小学校と一緒に行われコミュニティが取れていると思います。11年前から運動会も公民館と合同で行って高齢者、地区住民と児童が触れ合っております。他地区よりも3世代交流事業も多く行っていると思います。18日の運動会には市長も競技に参加され、市長チームは1位になりました。地区住民と児童が和気あいあいとなった運動会はどうでしたか。それで中心地対策、特に八坂小学校の校舎の一部を老人施設に建て替えか用途変更などを行っていただいて、いろんな法律などもあると思いますけど、高齢者がいる施設等に変更していただければ、児童の両親だけでなく先生も安心して小学校に子どもを行かせることができると思います。法律がいろいろありま

すけれど、小学校を何か施設に変更して八坂小学校をどんどんアピールしていただいて、児童数を増やすようお願いしたいと思います。

【市長】 番町、八坂、東雲の中心3校、これは校区の制限を外して全市域から選択制、市内すべての校区から児童が転入できるようになってます。八坂では動きがありまして、来年度から募集対象を全学年に拡大することになりました。今のところ全学年で全市選択できるというのは、東雲、五明、立岩、清水、興居島となっておりますけど、来年度から全学年で全市から転入ができるようになる。八坂の特徴としてはICT、電子黒板が導入されておりまして、無線LANがあったり、学級担任、児童に一人1台ペンタブレットパソコンが配備されている、これは全国で24地区46校にしかありません、愛媛県では八坂小学校だけです、大変うらやましい学校になっています。そういう現状があるんですけども、私もお年を召した方と子どもたちが触れ合う施設ぜひやりたいんですけども、スペースがないとなかなかできないという話なんです。「ふれあいセンター清水」やっとなやないかという話があります。これ経緯聞いたんですけど、清水小学校は姫山小学校と分離したんですね、空き教室じゃなく空き教棟ができたから入ることができたんです。現在八坂小学校には使用していない空き教室はないので老人施設等に建て替えたり用途変更することはスペースがないのでできない、視聴覚室の空いている時間帯を使って地元の方々が月2回程度高齢者サロンを開催をされている。その活動の中で児童とのふれあい交流活動をして、そういう場を活用していただいてより子どもたちとの交流を図っていただいたらということになるんですけど、これは私もぜひやりたいと思ってます、少子化だし、お父さんお母さんが共働きをしている方が多い、お父さんお母さんが子育てで困る、そういう中で人生の先輩であるおじいちゃんやおばあちゃんが、こういうときはこうしたらいいんよと手を差し伸べることができるのが、おじいちゃんおばあちゃんの存在だと思うんですね。最後になりますけど、個人とか孤独ということが言われる時代です、「個」が目立つ時代になってます。そうじゃなくてちょっと昔の絆、コミュニティがあった時代に戻したいと思ってます。この間の八坂の体育祭でも、こういうときに話し合っつながり、絆、コミュニティをつくってくださいねと申し上げたんですけど、やっぱり絆が大事だと思いますので、これからも一人一人が結びついてしっかりとつながりがある中心地にしていただけたらと思います。今日

比較的私がしゃべりすぎてしまいましたけど、時間が来てしまいました。

どうも長時間ありがとうございました。今日は最初手の上がり具合が少なかったなので、私のほうが多めにしゃべった方がいいのかなと思ひまして、まちづくりへの思いとかそういったところお話をさせていただきました、本当は質問したかったという方もいらっしゃるかもしれませんが、どうぞ市長へのわくわくメールという制度もありますので、おはがきで寄せていただくこともできますので、そういった制度を気軽に使っていただけたらと思います。とにかくこれは誓いとして、やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない、ということにしておりますので、持ち帰らせていただきますと申しあげました、1カ月くらいかかるかもしれませんが、必ず返答は申しあげますのでそれをまた見ていただいて、いろいろな話し合いを深めていって、八坂がいいまちづくりができればと思っております。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

(拍手)

—— 了 ——